

## 第 2 章

### 小学部の研究

# 小学部

## I これまでの研究成果

- 1 授業につながる個別の指導計画
  - 1-1 実態把握からの目標設定
  - 1-2 授業の目標・支援の設定
- 2 個別の指導計画につながる授業の評価
  - 2-1 授業の評価
  - 2-2 評価のフィードバック

## II 実践報告

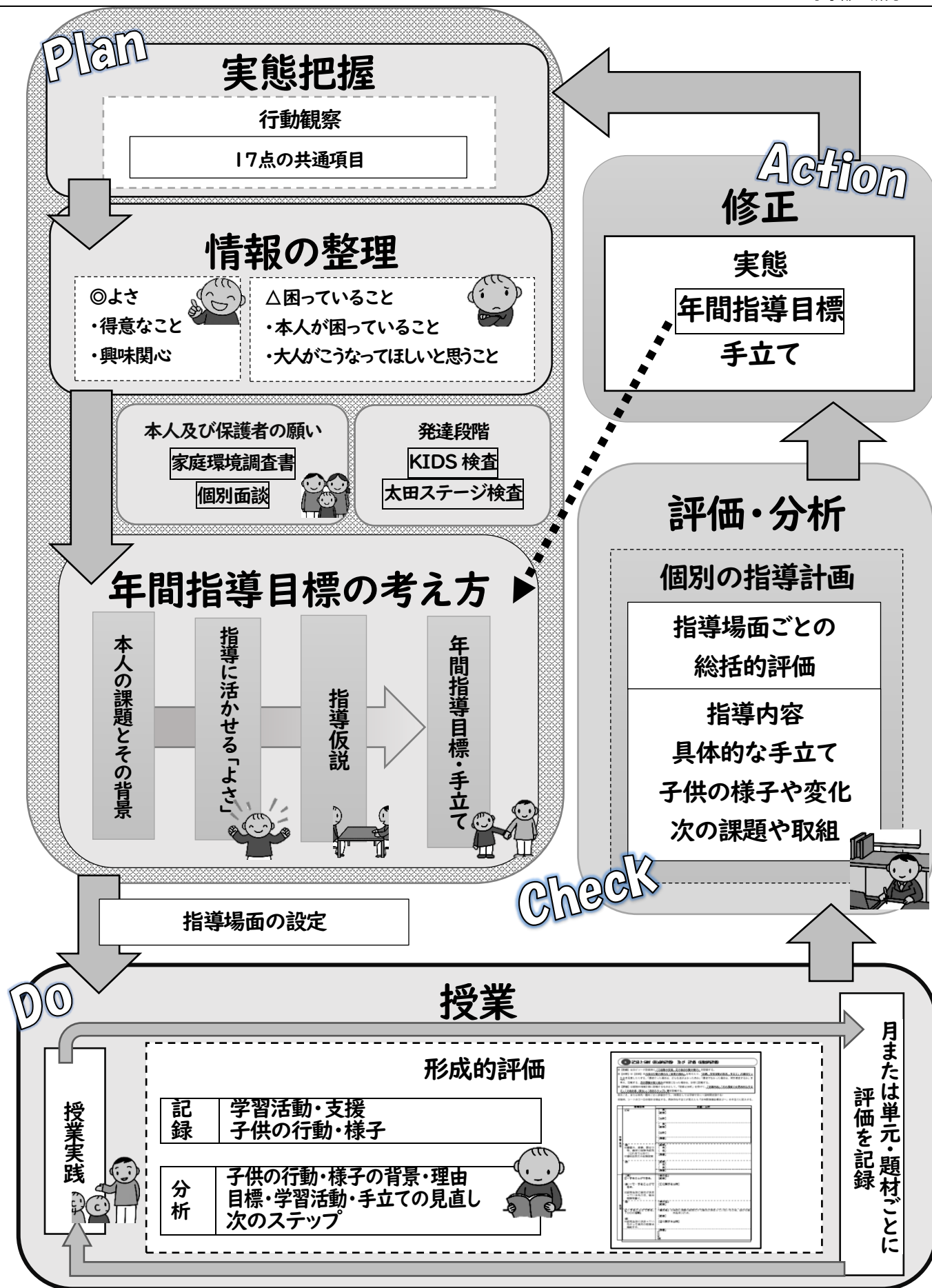
- 実践報告1 生活単元学習の実践  
「年間指導目標にせまる宿泊学習の取組」
- 実践報告2 おべんきょうタイムの実践  
「一人で取り組む力を伸ばすための工夫」
- 実践報告3 おべんきょうタイムの実践  
「注意・集中に課題のある児童の学習上の困難改善へのアプローチ」

## III 研究のまとめ

- 1 研究の成果
  - 1-1 教員間、教員と保護者間の共通理解と検討のしやすさ
  - 1-2 定期的に見直し、修正する流れの確立
- 2 今後の課題
  - 2-1 活用しやすくするための工夫
  - 2-2 情報の活用や記録の分析の仕方の工夫

## IV 資料

- 資料1 年間指導目標設定シート
- 資料2 目標設定から評価の流れ



小学部の PDCA の流れ

# I これまでの研究成果

## 1 授業につながる個別の指導計画

### 1-1 実態把握からの目標設定

小学部では、主に行動観察を基に実態把握を行い、年間指導目標の設定を行っている。児童の把握した実態は個別の指導計画に記入されるが、小学部では行動観察をする上で押さえておきたい 17 点の共通項目を設定し、どの児童に対しても同じ視点で実態を捉え、記録できるようにした。どの項目にも入らないが児童の実態を把握するため、また、指導していくうえで必要と思われる情報も記録できるようにした。実態の見方としては、児童ができるために必要な支援や環境設定をあわせて記録するようにした。

この記録は、年度末に担任が修正し、新担任に引き継いでいる。新担任は引き継がれた記録を参考に、担任する児童の行動観察を行い、記録の修正、及び情報の整理を行う。情報の整理では、新年度に児童の様子を見て修正した実態から「よさ（児童の得意なこと、興味関心）」「困っていること（児童が困っていること、周囲の大人が『こうなってほしい』と思っていること）」に印をつけていく。

ここから児童の課題や「よさ」を把握し、年間指導目標を考えていくが、その際に面談等で保護者から聞き取った「本人及び保護者の願い」を参考にする。また、KIDS 乳幼児発達スケール（前年度末に担任が実施）や太田ステージ検査の結果から、実態の見取りが妥当であったかを確認したり、指導の方針の参考にしたりする。

これらを踏まえ、児童の課題とその背景、課題に対して指導に活かせる「よさ」を挙げ、「このような指導をすればこのような姿が見られるのではないか」という指導仮説をたてた上で、年間指導目標、及び手立てを考えることとした。（図 1）



図1 年間指導目標の設定方法

### 1-2 授業の目標・支援の設定

年間指導目標から半期の指導計画を考える際に、まず年間指導目標に含まれる課題を細分化していく。そして、授業計画を参照しながら、具体的に指導できる場面、内容、目指す姿を考えていく。目指す姿は、到達したい評価基準となるようにした。

それを踏まえ、上記のような考え方で具体化し、各指導場面における年間指導目標に関わる指導目標と、授業計画の目標に関わる教科等の目標を半期の指導計画に記載して授業実践に取り組んでいく。（図 2）

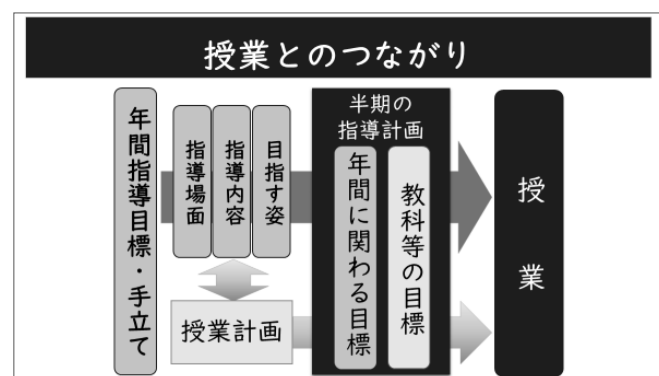


図2 年間指導目標と授業のつながり

## 2 個別の指導計画につながる授業の評価

### 2-1 授業の評価

年間指導目標に関わる半期の指導目標に対しては、授業実践を行う中で、定期的な形成的評価を記録として積み重ねていくこととした。「日常生活の指導」や「おべんきょうタイム（国語・算数・自立活動）」の個別学習など、日々、継続的な指導を行う指導場面における目標に対しては月ごとに、「生活単元学習」や「教科別の指導」など、学習の区切りが明確な指導形態における目標に対しては単元や題材ごとに形成的評価を記録していく。

形成的評価については、記録と分析を行うこととした。記録では、指導目標に対する学習活動の中での、活動や支援、それを受けた時の児童の行動や様子をエピソード的に記録していく。分析では、記録された児童の姿に対して、児童の行動や様子に対する理由や背景を考えていく。また、指導評価の視点として、目標や学習活動、手立ては適切だったか、を見直していく。適切だった場合はどの点が有効だったか。また、次の段階としてどのように取り組んでいくか等を考察する。適切でなかった場合は、目標の設定、学習活動の設定、手立ての修正を考察することとした。（図3）

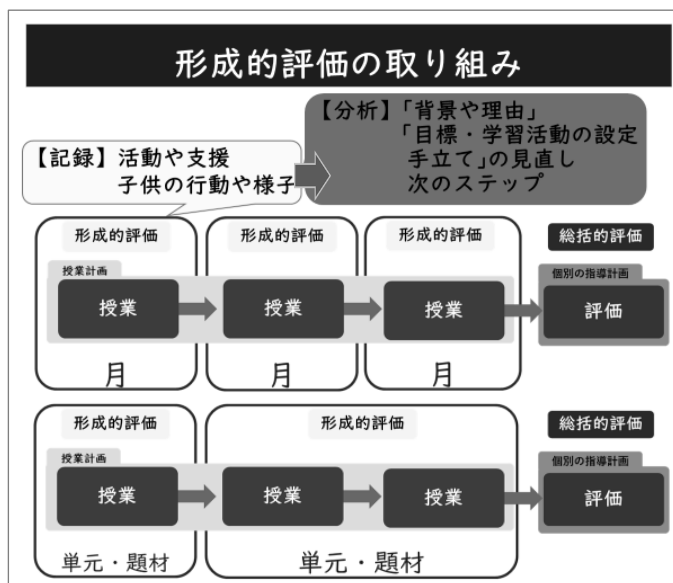


図3 形成的評価の取り組み

### 2-2 評価のフィードバック

それまでの形成的評価を受け、指導場面ごとの目標に対する総括的評価を行っていく。

総括的評価では、どのような指導を行ったのかという「指導内容」、その指導における「具体的な手立て」、「児童の様子や変化」、「次の課題や取組」等をまとめていく。指導場面ごとの総括的評価は学期ごとに行い、保護者と共有して、今後の方針等を話し合う。学期末の総括的評価を受け、個別の指導計画に記録されている実態の修正、また、年間指導目標、及び手立ての見直し、他の授業への活かし方を考える。年間指導目標については、考え方を修正し、新たに年間指導目標を設定することもある。

年度末には、年間指導目標に関わる指導場面ごとの総括的評価をさらにまとめ、年間指導目標の評価を行う。それぞれの指導場面ごとの取り組みから、目標達成にせまることのできた要因、環境設定、活動内容、有効な手立て等をまとめ、個別の指導計画に記録された実態や手立てなどを修正し、次年度に引き継いでいく。

（図4）

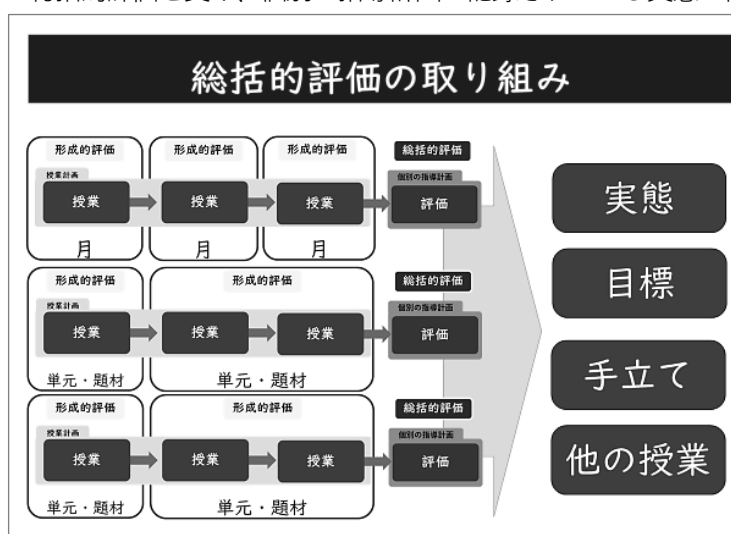


図4 評価のフィードバック